

# 他者と自己の関係や居住地域の捉え方と全体的生活満足感の関連性について

石塚 優

## 目次

### はじめに

#### 就業形態の変化

- 1 制度の変化と就業形態の多様化
- 2 全体的生活満足感

#### 全体的生活満足感に関連する要因

- 1 全体的生活満足感
- 2 居住している市の捉え方と全体的生活満足感の関連性
- 3 他者との関係からの自己の位置づけの捉え方と全体的生活満足感の関連性
- 4 生活のゆとり感と全体的生活満足感の関連性

#### 全体的生活満足感に関連する要因（限定的結果から）

### <要旨>

全体的生活満足感に関連する項目として「居住している街の捉え方」「社会関係としての他者と自己の位置づけの捉え方」「生活のゆとり感」をとりあげ、関連性を検討した。扱ったデータの中では全体的生活満足感と「経済面のゆとり」との関連を示唆する結果を得たが、単純な結果であり、個人がつくり、個人がつくられるネットワークに代表される社会的関係や、それを支える社会システムなどの要素を組み込むなど、「経済面のゆとり」が何により生じるかを検討する必要がある。

### <キーワード>

居住している街の捉え方（feeling of own town）、社会関係としての他者と自己の位置づけの捉え方（self cognition on social relations）、社会的ネットワーク（social network）、社会的システム（social system）

### はじめに

経済的不況の状態が長引くにつれ、また、日本の経営（経営家族主義、集団主義的経営）の特徴と称された終身雇用、年功序列、企業内組合から、雇用形態が大きく変化し、契約社員、派遣社員、時間労働（パート・アルバイト）が増加する不安定な雇用形態へと移行するにつれて（これら不安定な派遣労働や契約、嘱託、パート・アルバイトの多くが女性で

あるが男性も含めて)、生活の基本となる衣食住の充足を賃金に頼る賃金生活者が大部分を占める今日、その取得が不安定となり、生活の全体的満足感やゆとり感が低下していると推測される。一方で賃金以外の側面が全体的生活満足感を高めている可能性は否定できない。

そこで、第一に全体的生活満足感について調査結果を基に検討し、これに関連すると推測される居住している街をどのように捉えているか、社会関係としての他者と自己の位置づけをどのように捉えているか、経済的側面の捉え方について以下で検討する。

## 就業形態の変化

### 1 制度の変化と就業形態の多様化

雇用に関する一連の法律としては、労働基準法（1947 年）男女雇用機会均等法（1985 年）改正男女雇用機会均等法（1997 年）改正労働基準法（1999 年）改正男女雇用機会均等法（2006 年）等がある。これらの法律は男性労働者の保護規制（8 時間労働）や女性労働者の深夜業禁止から、男女平等を推進するための女性保護規制の撤廃や、女性の深夜労働の制限撤廃（1999 年の改正労働基準法）などへと改正されるとともに、性別を理由とする差別の禁止や事業主の雇用管理上の措置義務としてセクシュアルハラスメントの防止、妊娠婦の母性健康管理などの義務を含む内容へと変化している。

また、労働者派遣法（1986 年）は、基本的考え方として専門的業務、もしくは特別の雇用管理を要する業務に限定して、労働力需給を迅速に結びつけるための派遣を認める内容であった。そのため適用対象業務を限定し、派遣期間にも一定の規制を設け、派遣による常用雇用の肩代わりを制限した。しかし、1996 年、1999 年と改正を重ねるに従い対象業務は拡大し、2003 年改正時には、1999 年改正では対象業務から外されていた「製造」業務を対象業務に含める規制緩和が行われた。また、契約職員が 5 年を超える場合は正規雇用とする改正が行われた。

派遣期間も最長 1 年から 3 年に延長され、拡大した対象業務で働く不安定な派遣労働者にとり、多少の安定をもたらす反面で、派遣労働者の長期雇用が常用雇用を抑制する働きが強くなるという問題を同時に含んでいる。

このため、今日、女性のみならず、就業形態の多様化が認められる。職場には正規社員の他に派遣社員、契約社員、パートタイマー、アルバイト、請負社員、業務請負、再雇用など多様に存在し、派遣社員の 3 年、契約社員の 1 年更新で更新回数の制限付きなどの有期労働者が混在する。職場の中で「派遣さん」「請負さん」などと呼ばれる雇用区分が存在するのである。

さらに、女性の就業率や仕事に関する意識に影響する要因として、性別役割分担や性別職務分離（基幹労働力・能力・成果主義と補助的労働力）などの存在は周知の通りである。

また、「仕事と生活の調和推進のための行動指針」として一定の年齢層の女性と高年齢者の労働力率を具体的な目標値を設定して上げる政策は「ワークライフバランス」という用語で象徴的に表されているが、その用語そのものは表1の通り、「知らない」人が半数を超えており、まだ浸透過程のようである。このように、主として女性を対象とし、子育て世代の男性も視野に入れた政策的側面のワークライフバランスについては、周知度が高いとはいえず、現実性が薄い結果として推移している。

表1 ワークライフバランスという言葉を知っている

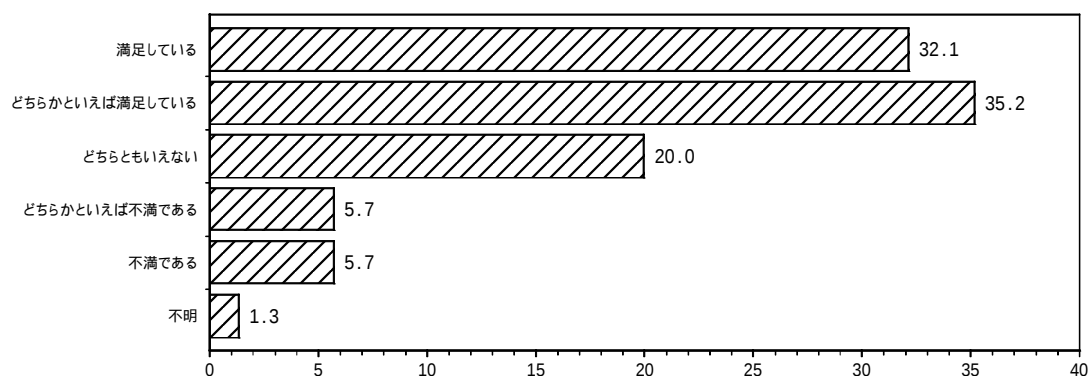
|                   | 2013 年調査 |       | 2012 年調査 |       |
|-------------------|----------|-------|----------|-------|
|                   | 人数       | 構成比   | 人数       | 構成比   |
| 合計                | 705      | 100.0 | 536      | 100.0 |
| 知っている             | 214      | 30.4  | 159      | 29.7  |
| 知らない              | 366      | 51.9  | 292      | 54.5  |
| 聞いたことはあるが内容はわからない | 115      | 16.3  | 82       | 15.3  |
| 不明                | 10       | 1.4   | 3        | 0.6   |

地域づくりに関する調査研究 2013 年より

## 2 全体的生活満足感

全体的生活満足感に関しては図1に示す通り、「どちらかといえば満足」を含めると7割近くの人が満足感を持っている結果である。

図1 全体的生活満足感



地域づくりに関する調査研究 2013 年より

この図 1 の結果は、経済的側面や雇用形態の変化が必ずしも全体的生活満足感に関連していないことを示唆している。それでは何が全体的生活満足感に関連し、その関連する要因は何により生じるのかを、得られた資料が限定的であるために、関連すると見なされる項目も限定されるが、以下で検討する。

## Ⅱ 全体的生活満足感に関連する要因

### 1 全体的生活満足感

表 2 は全体的満足感の記述統計量を示している。現在の生活について「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」で回答を求め、順に 2 ～ -2 点まで 0.5 点間隔で配点した記述統計を示している。各々の回答結果を示していないが、「満足している」「どちらかといえば満足している」の計が 6 割以上を占めている。これに「どちらともいえない」を加えると 8 割を超え、図 1 と同様の結果を示している。

表 2 全体的生活満足感の記述統計量

|            | 度数  | 最小値 | 最大値 | 平均値   | 標準偏差  |
|------------|-----|-----|-----|-------|-------|
| 全体的生活満足度得点 | 554 | -2  | 2   | 0.662 | 1.087 |

表 3 は居住している市に関する 21 項目の捉え方について「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」で回答を求め、順に 2 ～ -2 点まで 0.5 点間隔で配点した結果の記述統計を示している。「⑯食べ物がおいしい」「⑳医療施設が整っている」「④交通機関が便利」などは平均点が高く前二者は標準偏差も小さく、意見ばらつきも小さいことがわかる。逆に「①若者が多く活気がある」「⑰異性と知り合う機会が多い」「⑧したいと思う仕事がある」「⑬きれいな男女が多い」「⑨教養を高め文化に接する機会が多い」「⑪子どもの教育環境がよい」「⑫人と知り合う機会、活動の場が多い」は平均点が低く否定的である。

### 2 居住している市の捉え方と全体的生活満足感の関連性

この表 3 に示した市の捉え方と全体的生活満足感との関連性についてピアソンの相関係数を求めた結果を表 4 に示した。＊は 5 % 水準、＊＊は 1 % 水準で有意であることを示す（以下同様）。ただし、表 4 以降には生活満足感とペアによる相関係数を示しており、相関行列は省略している。

これによると全体的生活満足感と居住している市の捉え方の各項目は概ね有意な関連性が認められるが、相関係数としては高い相関は認められない。

個々に見ると、全体的生活満足感と有意に相関が認められなかった市の捉え方の項目は「②古いしきたりがない」「④交通機関が便利」「⑱芸術・文化施設が多い」の3項目である。

表3 他都市と比較した居住している市の捉え方の記述統計量

|                       | 度数  | 最小値 | 最大値 | 平均値    | 標準偏差  |
|-----------------------|-----|-----|-----|--------|-------|
| ①若者が多く活気がある           | 521 | -2  | 2   | -0.630 | 1.039 |
| ②古いしきたりがない            | 517 | -2  | 2   | 0.093  | 1.073 |
| ③北九州市に住んでいることを自慢できる   | 522 | -2  | 2   | 0.132  | 1.122 |
| ④交通機関が便利              | 523 | -2  | 2   | 0.593  | 1.210 |
| ⑤国際都市である              | 521 | -2  | 2   | -0.259 | 1.115 |
| ⑥娯楽が多い                | 521 | -2  | 2   | 0.036  | 1.111 |
| ⑦きれいな街や公園など心が休まる場がある  | 523 | -2  | 2   | 0.317  | 1.053 |
| ⑧したいと思う仕事がある          | 509 | -2  | 2   | -0.346 | 1.134 |
| ⑨教養を高め文化に接する機会が多い     | 519 | -2  | 2   | -0.249 | 1.048 |
| ⑩人情味がある               | 521 | -2  | 2   | 0.294  | 0.953 |
| ⑪子どもの教育環境がよい          | 515 | -2  | 2   | -0.068 | 0.999 |
| ⑫人と知り合う機会、活動の場が多い     | 521 | -2  | 2   | -0.056 | 0.936 |
| ⑬きれいな男女が多い            | 520 | -2  | 2   | -0.252 | 0.895 |
| ⑭買物をする際、多様な商品があり、楽しめる | 524 | -2  | 2   | 0.197  | 1.096 |
| ⑮多様な情報が容易に手に入る        | 523 | -2  | 2   | 0.161  | 1.010 |
| ⑯食べ物がおいしい             | 524 | -2  | 2   | 1.135  | 0.902 |
| ⑰異性と知り合う機会が多い         | 516 | -2  | 2   | -0.372 | 0.860 |
| ⑱芸術・文化施設が多い           | 520 | -2  | 2   | 0.154  | 1.025 |
| ⑲行政機関がよくやっている         | 521 | -2  | 2   | 0.069  | 1.009 |
| ⑳多様な飲食店がある            | 522 | -2  | 2   | 0.425  | 1.035 |
| ㉑医療施設が整っている           | 521 | -2  | 2   | 0.750  | 0.975 |

以上の3項目以外では、「⑥娯楽が多い」を除き有意確率1%で相関があると認められる。ただし、相関係数を見ると0～0.2を相関なし、0.2～0.4を弱い相関ありとしても、0.2以上を示しているのは「⑫人と知り合う機会、活動の場が多い」「⑮多様な情報が容易に手に入る」のみであり、ほとんど関連性が認められない。相関ありを0.3以上とするとすべての項目で関連性が認められない。この結果は市の捉え方と全体的生活満足感が連動して変化するとは言えないことを示している。

表 4 居住している市の捉え方と全体的生活満足感の相関関係（ペアによる相関係数）

|                      | Pearson の相関係数 | 有意確率（両側） |
|----------------------|---------------|----------|
| 若者が多く活気がある           | .175          | .000**   |
| 古いしきたりが無い            | .017          | .708     |
| 北九州市に住んでいることを自慢できる   | .243          | .000**   |
| 交通機関が便利              | .064          | .167     |
| 国際都市である              | .132          | .004**   |
| 娯楽が多い                | .098          | .032*    |
| きれいな街や公園など心が休まる場がある  | .182          | .000**   |
| したいと思う仕事がある          | .159          | .001**   |
| 教養を高め文化に接する機会が多い     | .145          | .002**   |
| 人情味がある               | .194          | .000**   |
| 子どもの教育環境がよい          | .173          | .000**   |
| 人と知り合う機会、活動の場が多い     | .225          | .000**   |
| きれいな男女が多い            | .151          | .001**   |
| 買物をする際、多様な商品があり、楽しめる | .142          | .002**   |
| 多様な情報が容易に手に入る        | .200          | .000**   |
| 食べ物がおいしい             | .174          | .000**   |
| 異性と知り合う機会が多い         | .197          | .000**   |
| 芸術・文化施設が多い           | .067          | .148     |
| 行政機関がよくやっている         | .164          | .000**   |
| 多様な飲食店がある            | .128          | .005**   |
| 医療施設が整っている           | .154          | .001**   |

### 3 他者との関係からの自己の位置づけの捉え方と全体的生活満足感の関連性

表 5 には、他者との関係からの自己の捉え方として回答を求めた 20 項目について「いつも感じる」「ときどき感じる」「どちともいえない」「あまり感じない」「まったく感じない」について、順に 2～-2 点まで 0.5 点間隔で配点した結果の記述統計を示している。配点に

ついては「 孤立していると感じる」「 自分は内向的で内気だと感じる」「 頼れる人がいないと感じる」「 自分だけ取り残されていると感じる」「 もっと自分の時間が欲しいと感じる」「 近所の人との関係をわずらわしいと感じる」の6項目は「いつも感じる」「ときどき感じる」「どちらともいえない」「あまり感じない」「まったく感じない」に順に-2点～2点と配点した。

表5 自己の位置づけの捉え方の記述統計量

|                     | 度数  | 最小値 | 最大値 | 平均値  | 標準偏差  |
|---------------------|-----|-----|-----|------|-------|
| 周りの人との関係は充実している     | 558 | -2  | 2   | .51  | 1.023 |
| 人との付き合いは十分できている     | 559 | -2  | 2   | .50  | 1.045 |
| 信頼できる人がいる           | 558 | -2  | 2   | .88  | 1.098 |
| 一員といえる仲間がいる         | 556 | -2  | 2   | .72  | 1.120 |
| 周りの人とは共通点が多いと思う     | 557 | -2  | 2   | .18  | 1.009 |
| 自分は外向的で気さくだと思う      | 557 | -2  | 2   | .13  | 1.144 |
| 近所の人とは相互に信頼し合っている   | 557 | -2  | 2   | -.03 | 1.057 |
| 好きなときに人との付き合いがもてる   | 554 | -2  | 2   | .35  | 1.057 |
| 孤立していると感じる          | 559 | -2  | 2   | .67  | 1.018 |
| 自分は内向的で内気だと感じる      | 560 | -2  | 2   | .22  | 1.123 |
| 頼れる人がいないと感じる        | 556 | -2  | 2   | .53  | 1.083 |
| 人と知り合う機会がある         | 554 | -2  | 2   | .21  | 1.129 |
| 近所の人とは困った時に助け合える    | 558 | -2  | 2   | .09  | 1.131 |
| 自分だけ取り残されていると感じる    | 556 | -2  | 2   | .71  | .994  |
| 多様な情報に関心がある         | 558 | -2  | 2   | .63  | .983  |
| 親密な人がいる             | 554 | -2  | 2   | .51  | 1.174 |
| 近所の人との親密な付き合いがある    | 559 | -2  | 2   | -.31 | 1.173 |
| もっと自分の時間が欲しいと感じる    | 560 | -2  | 2   | -.32 | 1.203 |
| 近所の人との関係をわずらわしいと感じる | 560 | -2  | 2   | .31  | 1.009 |
| 自分は信頼されていると感じる      | 560 | -2  | 2   | .20  | .843  |

他者との関係からの自己の捉え方で平均値が高いのは「 信頼できる人がいる」「 自分だけ取り残されていると感じる」「 一員といえる仲間がいる」「 孤立していると感じる」「 頼れる人がいないと感じる」「 周りの人との関係は充実している」「 人との付き合いは十分できている」等である。

標準偏差が低い項目は「多様な情報に関心がある」「自分は信頼されていると感じる」「自分だけ取り残されていると感じる」であり、これらの項目はバラツキが小さいことを示している。

「自分だけ取り残されていると感じる」「孤立していると感じる」「頼れる人がいないと感じる」に関しては「いつも感じる」に-2、「ときどき感じる」に-1、「どちらともいえない」に0、「あまり感じない」に1、「まったく感じない」に2と配点していることから、平均値が高いことは「自分だけ取り残されていると感じる」「孤立していると感じる」「頼れる人がいないと感じる」人が少ないことを示している。

表6 自己の位置づけの捉え方と全体的生活満足感の相関関係（ペアによる相関係数）

|                     | Pearson の相関係数 |
|---------------------|---------------|
| 周りの人との関係は充実している     | .344**        |
| 人との付き合いは十分できている     | .328**        |
| 信頼できる人がいる           | .278**        |
| 一員といえる仲間がいる         | .230**        |
| 周りの人とは共通点が多いと思う     | .248**        |
| 自分は外向的で気さくだと思う      | .218**        |
| 近所の人とは相互に信頼し合っている   | .175**        |
| 好きなときに人との付き合いがもてる   | .279**        |
| 孤立していると感じる          | .302**        |
| 自分は内向的で内気だと感じる      | .151**        |
| 頼れる人がいないと感じる        | .282**        |
| 人と知り合う機会がある         | .202**        |
| 近所の人とは困った時に助け合える    | .198**        |
| 自分だけ取り残されていると感じる    | .332**        |
| 多様な情報に関心がある         | .061          |
| 親密な人がいる             | .216**        |
| 近所の人との親密な付き合いがある    | .212**        |
| もっと自分の時間が欲しいと感じる    | .045          |
| 近所の人との関係をわずらわしいと感じる | .122**        |
| 自分は信頼されていると感じる      | .238**        |

表6には表4同様に全体的生活満足感と他者との関係からの自己の捉え方の相関係数と有意確率の水準を\*で示した。有意水準は\*\*が1%、\*が5%水準で有意であることを示す。

なお、表 4 に示した有意確率（両側）は\*\*を示すことで省略した。

表 6 によると「多様な情報に関心がある」「もっと自分の時間が欲しいと感じる」の 2 項目に関しては有意な関連性が認められなかった。これ以外の項目は全体的生活満足感と他者との関係からの自己の捉え方が連動して変化する有意な関連性が認められた。しかし、相関係数を見る限り、「周りの人との関係は充実している」「人との付き合いは十分できている」「孤立していると感じる」「自分だけ取り残されていると感じる」の 4 項目が 0.3 を超えているのみで、他の項目は 0.3 を下回り、相関ありを 0.3 以上とすると関連性が認められない。相関係数を 0～0.2 を相関なし、0.2～0.4 を弱い相関ありとしても、0.2～0.3 の間を示しているのは「信頼できる人がいる」「一員といえる仲間がいる」「周りの人とは共通点が多いと思う」「自分は外向性で気さくだと思う」「好きなときに人との付き合いがもてる」等 10 項目であるが、これらも弱い相関ありに留まるなど、関連性が弱い。

#### 4 生活のゆとり感と全体的生活満足感の関連性

ここまで居住している市の捉え方と他者との関係からの自己の位置づけの捉え方と全体的生活満足感との関連性を見てきたが、両者の指標とした項目はほとんど関連性がなかった。つまり、市の捉え方と他者との関係からの自己の位置づけの捉え方と連動して全体的生活満足感が変化するとは認められなかった。そこで、以下では、大まかな「ゆとり感」という曖昧な質問について回答をもとめた結果と全体的生活満足感の関連性を見てみた。

以下の「ゆとり感」の各項目についてゆとりが「十分ある」「ある程度ある」「あまりない」「非常に乏しい」で回答する形式である。配点は順に 4、3、2、1 として集計した。

##### （１）生活の諸側面のゆとり感

表 7 生活の諸側面のゆとり感の記述統計量

|                 | 度数  | 最小値 | 最大値 | 平均値  | 標準偏差 |
|-----------------|-----|-----|-----|------|------|
| 全体的経済面でのゆとり     | 555 | 1   | 4   | 2.44 | .722 |
| 全体的時間面でのゆとり     | 552 | 1   | 4   | 2.75 | .803 |
| 全体的居住空間面でのゆとり   | 550 | 1   | 4   | 2.88 | .723 |
| 全体的精神面でのゆとり     | 550 | 1   | 4   | 2.63 | .713 |
| 生活を総合的に見た場合のゆとり | 554 | 1   | 4   | 2.62 | .671 |

表 7 は生活の諸側面として「全体的経済面」「全体的時間面」「全体的居住空間面」「全体的精神面」「生活を総合的に見た場合」のゆとり感の記述統計量を示している。市の捉え方

と他者と関係からの自己の位置づけの捉え方との違いは標準偏差が小さいことである。これにより、回答者のゆとり感のバラツキが小さいことが分かる。

平均値を見ると「全体的居住空間面でのゆとり」が最も高い。続いて「全体的時間面でのゆとり」が高く、「全体的精神面でのゆとり」「生活を総合的に見た場合のゆとり」は同水準である。表8は生活の諸側面のゆとり感と全体的生活満足感の相関関係を示している。ここで、相関係数の絶対値0～0.2、0.2～0.4、0.4～0.7、0.7～1を順に「相関なし」「弱い相関有り」「相関有り」「強い相関有り」を基準値とすると「生活を総合的に見た場合のゆとり」「全体的経済面でのゆとり」「全体的精神面でのゆとり」は相関有りを示し、「全体的居住空間面でのゆとり」と「全体的時間面でのゆとり」は弱い相関を示すことになる。逆に「全体的時間面でのゆとり」はほとんど関連性なしといえる。平均値の高低と相関係数が示す関連性は必ずしも一致しない。

表8 生活の諸側面のゆとり感と全体的生活満足感の相関関係（ペアによる相関係数）

|                 | Pearson の相関係数 |
|-----------------|---------------|
| 全体的経済面でのゆとり     | .531**        |
| 全体的時間面でのゆとり     | .201**        |
| 全体的居住空間面でのゆとり   | .365**        |
| 全体的精神面でのゆとり     | .484**        |
| 生活を総合的に見た場合のゆとり | .598**        |

## （２）経済面のゆとり感

表7と同じ配点をした経済面のゆとり感についての記述統計量を表9に示した。経済面も生活の諸側面と同様に標準偏差が小さい。平均値は「毎日の生活費」が高く、ゆとりを示している。この中では「老後の備え」の平均値が低い。全体的に生活の諸側面のゆとり感よりも平均値が低くなっている。

表9 経済面のゆとり感の記述統計量

|                 | 度数  | 最小値 | 最大値 | 平均値  | 標準偏差 |
|-----------------|-----|-----|-----|------|------|
| 毎日の生活費          | 554 | 1   | 4   | 2.69 | .729 |
| 病気など万一の場合の経済的余裕 | 555 | 1   | 4   | 2.36 | .806 |
| 教育や子育て資金        | 464 | 1   | 4   | 2.26 | .772 |
| 老後の備え           | 554 | 1   | 4   | 2.05 | .823 |
| 交際費・娯楽費         | 553 | 1   | 4   | 2.35 | .794 |

表 10 は経済面のゆとり感と全体的生活満足感の相関関係を示している。「 毎日の生活費」「 教育や子育て資金」「 病気など万一の場合の経済的余裕」「 交際費・娯楽費」「 老後の備え」のすべてが相関有りに該当する。経済面は全体的生活満足感と関連性があるといえる。

表 10 経済面のゆとり感と全体的生活満足感の相関関係（ペアによる相関係数）

|                 | Pearson の相関係数 |
|-----------------|---------------|
| 毎日の生活費          | .511**        |
| 病気など万一の場合の経済的余裕 | .507**        |
| 教育や子育て資金        | .510**        |
| 老後の備え           | .487**        |
| 交際費・娯楽費         | .503**        |

### （３）日常生活でのゆとり感

表 11 に示す日常生活でのゆとり感の記述統計量から、標準偏差が小さいのが分かる。特に「 家族関係のゆとり」が小さい。平均値は「 家族関係のゆとり」が高く、「 余暇時間」「 家事や育児のゆとり」に比べて「 家族の介護のゆとり」「 将来に関するゆとり」は若干低い。しかし、経済面の「 教育や子育て資金」「 老後の備え」よりは高いという結果である。

表 11 日常生活のゆとり感記述統計量

|           | 度数  | 最小値 | 最大値 | 平均値  | 標準偏差 |
|-----------|-----|-----|-----|------|------|
| 家事や育児のゆとり | 505 | 1   | 4   | 2.61 | .729 |
| 家族の介護のゆとり | 504 | 1   | 4   | 2.35 | .781 |
| 家族関係のゆとり  | 537 | 1   | 4   | 2.80 | .698 |
| 将来に関するゆとり | 546 | 1   | 4   | 2.24 | .757 |
| 余暇時間      | 548 | 1   | 4   | 2.66 | .838 |

表 12 には日常生活のゆとり感と全体的生活満足感の相関関係を示した。これによると上述した「 全体的経済面でのゆとり」「 毎日の生活費」「 教育や子育て資金」ほど関連性を示す項目はない。最も高い関連性を示したのは「 将来に関するゆとり」であり相関ありの水準である。これに近い関連性を示したのは「 家族関係のゆとり」であるが、これも含めて「 家事や育児のゆとり」「 家族の介護のゆとり」「 余暇時間」は弱い相関である。

表 12 日常生活のゆとり感と全体的生活満足感の相関関係（ペアによる相関係数）

|           | Pearson の相関係数 |
|-----------|---------------|
| 家事や育児のゆとり | .329**        |
| 家族の介護のゆとり | .303**        |
| 家族関係のゆとり  | .393**        |
| 将来に関するゆとり | .490**        |
| 余暇時間      | .269**        |

#### 全体的生活満足感に関連する要因（限定的結果から）

全体的生活満足感の高い要因を限定的に「居住している市の捉え方」「他者と関係からの自己の位置づけの捉え方」「生活の諸側面のゆとり」「経済面のゆとり」「日常生活のゆとり」との関連性として検討した。

検討の結果は上述した通り、「居住している市の捉え方」「他者と関係からの自己の位置づけの捉え方（対人関係の認知）」と全体的生活満足感の関連性はほとんど認められなかった。このため両者は連動して変化するとはいえない結果である。つまり、居住環境と対人関係の認知である「交通機関が便利」「医療施設が整っている」「食べ物がおいしい」「周りの人との関係は充実している」「人との付き合いは十分できている」「自分だけ取り残されていない」「孤立していない」「信頼できる人がいる」「人との付き合いは十分できている」などは全体的生活満足感と弱い関連性に留まる。

一方、「生活の諸側面のゆとり」「経済面のゆとり」「日常生活のゆとり」の中では「全体的経済面でのゆとり」「全体的精神面でのゆとり」「毎日の生活費」「病気など万一の場合の経済的余裕」「教育や子育て資金」「交際費・娯楽費」「将来に関するゆとり」などが相関有りを示した。これらの多くが経済面である。

しかし、この結果により「全体的経済面のゆとり」により表される「毎日の生活費」「病気など万一の場合の経済的余裕」「教育や子育て資金」「交際費・娯楽費」「将来に関するゆとり」など主として経済面が全体的生活満足感と関連しているとは言い切れない。全体的生活満足感に経済面は関連するが、経済面は何により生じるかが課題である。巨視的課題から微視的課題へ視点を移すと、例えば、賃金生活により生活が私事化し、地域でのつながりが希薄になり、居住する地域の活動に参加せず、近隣の人との付き合いがないからといって、孤立や孤独ではない。風が吹けば桶屋が儲かる的な社会的ネットワークは、個人が関係をつくり、関係が個人をつくる的な人との関係は物が造る関係のように目視できないが、関係を構成する主体自身が常に意志や感情をもち、さまざまな判断をしているとすると無視できない。例えば、夫婦が常に共に活動する夫婦とまったく別の活動してい

る夫婦では個人的な社会との関わりが異なるが生活は充実している可能性がある。関係が経済的紐帯や近隣の互酬的紐帯であっても、これらが生活充実感と関連し、生活の質的側面と関連するかもしれない。一方で、1990年代から議論された在宅ケアネットワークが充実した場合には老後や病気の側面で精神的ゆとりが生じる可能性がある。このように、全体的生活満足感と関連する要素は、個人の関係(所属意識)の充足とともに社会的システムの充実が支える面を持ち、両者により生じるといえるかもしれない。生活満足感や生活充実感、生活の質に関しては個人が関係をつくり、関係が個人をつくり、社会のシステムが支えるという関係性を見ていく必要がある。

注) 「全体的生活満足感に関連する要因」の中で用いたデータは2014年1月6日～1月27日に実施した「生活感とゆとり感に関するアンケート」結果の一部を加工して掲載した。調査対象者は20歳以上の1,500人。564人の回答を得られた。統計処理にはJMPを用いた。

#### 【引用・参考文献】

エリザベス・ボット 野沢慎司訳「都市の家族 - 夫婦役割と社会的ネットワーク」『リーディングスネーとワーク論』野沢慎司編・監訳、勁草書房 2006、pp35-95  
金子郁容編「関係変化のネットワーク」現代のエスプリ 270、1990  
関門地域研究 Vol.21、Vol.22、関門地域共同研究会(北九州市立大学、下関市立大学)2012、2013  
地域づくりに関する調査研究 北九州市立大学 2013  
ニコラス・A・クリスタキス、ジェイムズ・H・ファウラー著 鬼澤忍訳「つながり - 社会的ネットワークの驚くべき力」講談社 2010